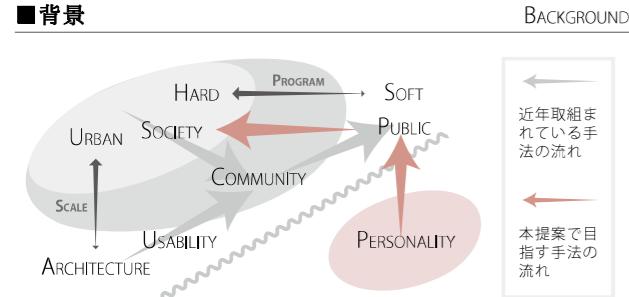


わがまちを経て、営む。

早稲田通りに主体性を取り戻し、空間からまちを醸成する手法の構築。

■背景



近年の都市計画では、コミュニティ・場づくりの観点から、人間関係を重視したまちづくりが行われている。一方、建築側では、リノベーション等、建物のもつ空間の力をコミュニティへと発展させる動きが生まれている。最近では、それらの考え方を統合する形で、パブリックやプレイスといった考え方の下、空間にアクティビティを誘発する取組が積極的に試行されている。

しかし、人・空間の関係性を重視するあまり、アウトプットは「賑わい」で括れるような、誰の顔も見えない似通った空間に過ぎないことが多い。本提案では、早稲田通り沿いの特徴的なアクティビティと空間を個の視点から抜き出し、それぞれの主体が重なる総体として、まちのあり方を再編していく手法を模索する。

■現状分析 1：まち × アクティビティ

■現状分析 1：まち × アクティビティ

■早稲田通りの通行調査

・時間帯別の主体・人数・行動・歩く様子

平日

朝、暮、夕、夜ごとに主体が変化する。

通学する小学生 送迎の親子 通勤する会社員 近所に住む男性 地元のお年寄り

会社員がお昼食を食べに道に溢れる 女性が赤ちゃんを抱っこしながら散歩する 朝に比べ下校時間はまばら 飯田橋駅へ向かう会社員 一人でコンビニで買い物をする

小学校の登校時間や通学路の様子がわかる

出社途中の会社員

女性が赤ちゃんを抱っこしながら散歩する

出社途中の会社員